

スタートアップ・エコシステム 形成支援事業

- 主幹機関： 九州大学
- 共同機関： 福岡大学、九州産業大学、日本経済大学
- 主幹自治体： 福岡市

本スタートアップ・エコシステムの目指す姿・KPI

福岡流エコシステムの確立

- 達成する目標 -

① スタートアップの創出
スタートアップ数 倍増以上

② スタートアップの成長
ユニコーン 5社以上創出

③ グローバルスタートアップ



目指す姿を実現するための取り組み

本プラットフォームの貢献

拠点都市 ゴール

<目指す姿>

イノベーションの駆動力の強化・深化

世界に伍する
ディープテック企業の創出

地域エコシステムの底上げ

スタートアップ・ムーブメント
の地域全体への醸成・波及

<中心となる取り組み>

「技術商業化」と「人材育成」を同期（シンクロ）

GAPファンドNEXTプログラム

- GAP案件にプレCXO人材を配置
- プレCXO及び事業化サポート人材のプール化
- 自走に向けた外部法人化の検討

アントレプレナー人材育成プラットフォームの形成

FSE（Fukuoka School of Entrepreneurship）

- アントレプレナーシップ教育の拠点化
- アントレプレナー教員のためのFaculty Development
- GAPNEXT ブリッジカリキュラムの実施

<実現のための仕組みやインフラ>

- 各地区に起業準備拠点を設置、拠点都市の成長支援の中心地「FGN」との接続
- 福岡地域戦略推進協議会との接続強化

本プラットフォームの拠点都市への貢献

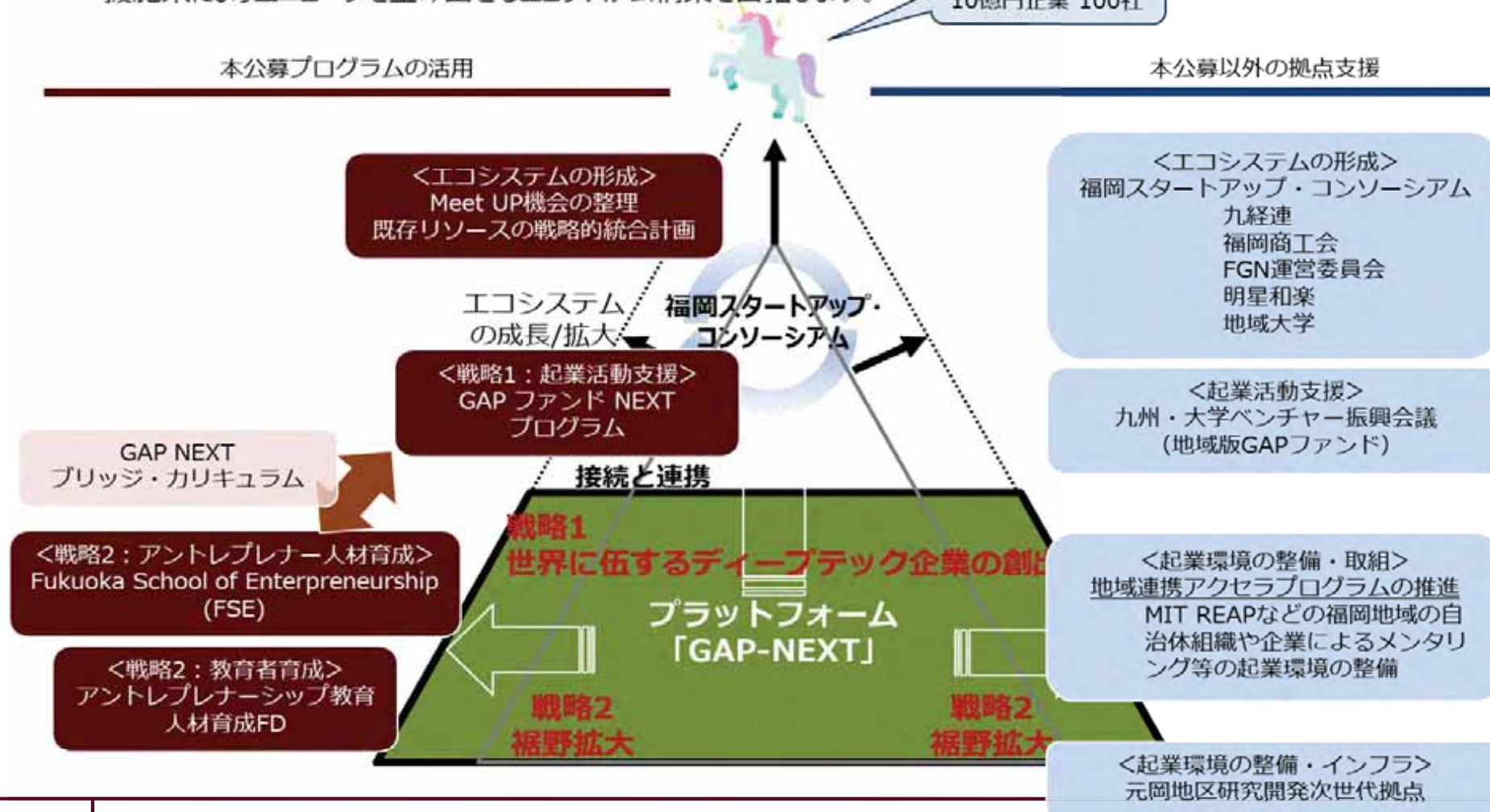
ユニコーン創出に向けた福岡流エコシステム強化

これまでの取組に加え、コンソーシアムを通じた連携や、新たな支援施策によりユニコーンを生み出せるエコシステム構築を目指します。

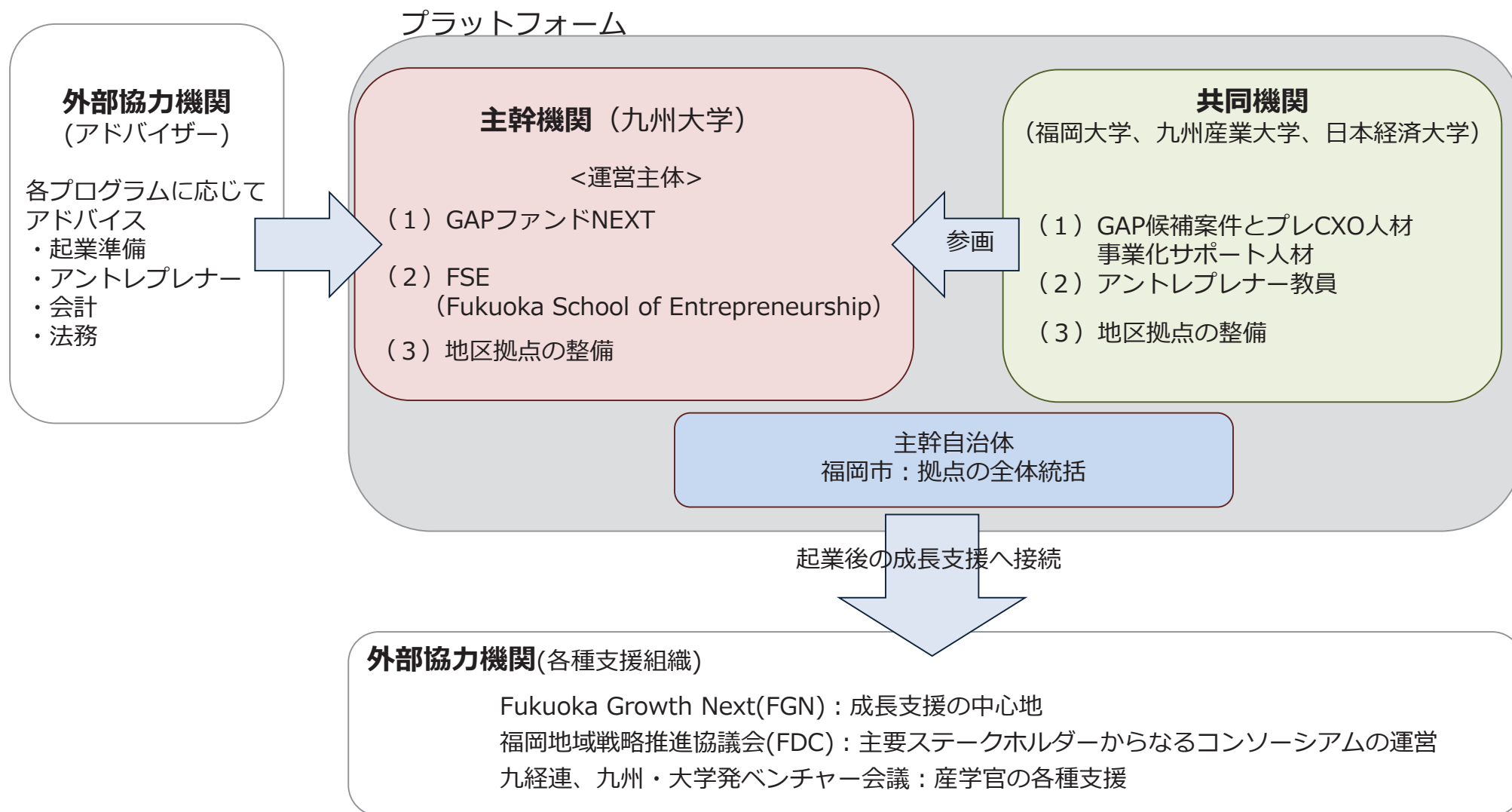
ユニコーン 5社
10億円企業 100社

本公募プログラムの活用

本公募以外の拠点支援



プラットフォームにおける連携体制

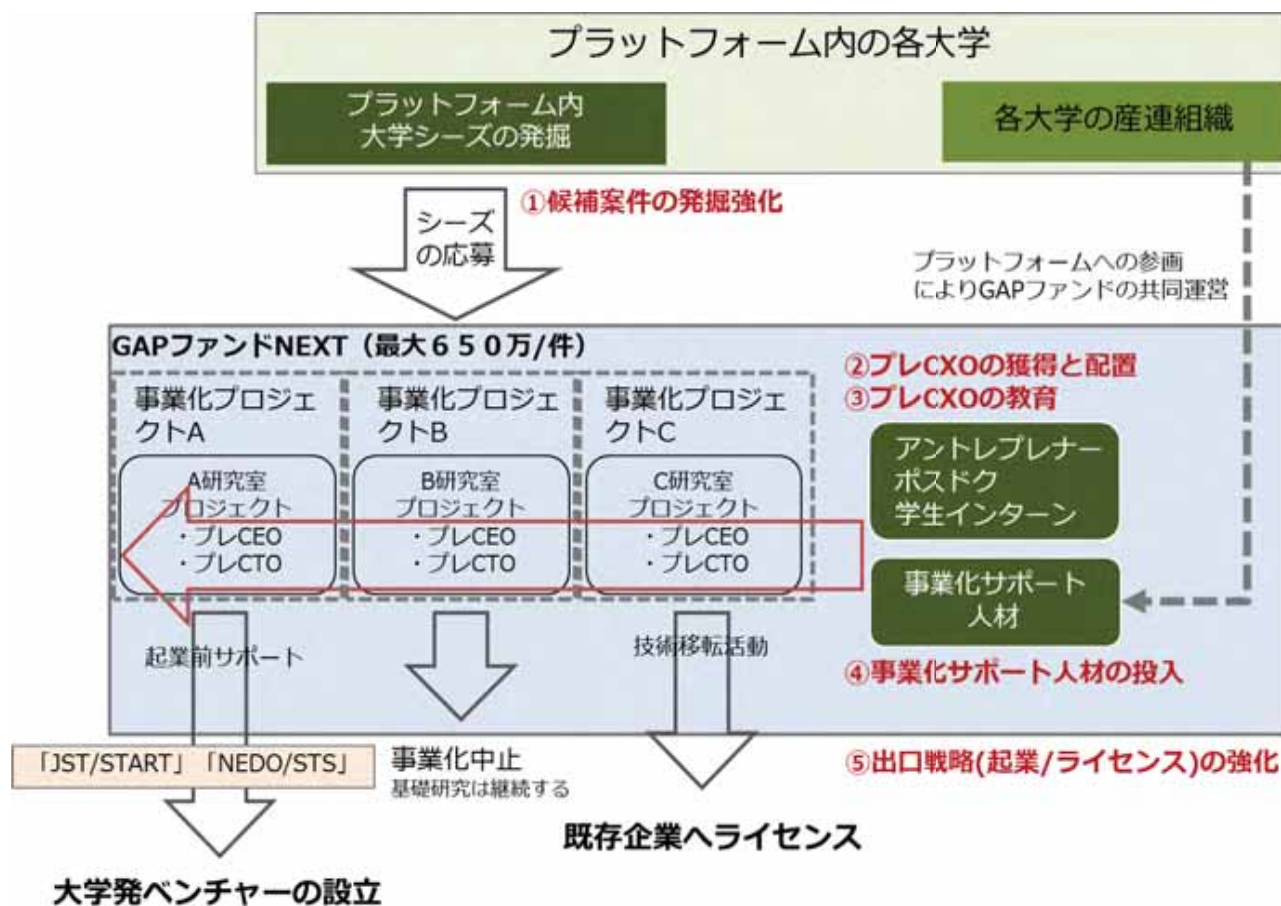


中心となる取り組み

1. GAPファンドNEXTプログラム

～「技術商業化」と「人材育成」を同期（シンクロ）～

GAPファンドNEXTプログラム概要



SCORE事業における経過・状況

<ステップ>

<状況>

案件応募

申請数：21件
採択数：10件

審査
採択

外部審査員による審査
採点基準等のPDCA済

ブレCXO
応募
選定

応募数：350名超
教育、業務遂行、ノウ
ハウ共有などは仕組み
構築予定

助成期間

DemoDay

プレCXO_募集

ハイクラス副業

必要なのは「資金」そして「人材」目指すは、スタートアップ・エコシステムの構築



事業化プロデューサーに必要なのはスキルではなく、想い

一般的に大学発ベンチャーが研究成果を事業化するまでの道のりには、「魔の川」や「死の谷」と呼ばれるギャップがある。そのギャップを埋めるために、アントレプレナーシップ溢れる人材が事業化の可能性を探索的に見出すとともに、不足する資源をギャップファンドなどが提供しながら可能性を追求するなど、ヒト、モノ、カネをいかに集められるかが肝となる。

だからこそ、九州大学では研究費と民間投資の間にあ

今回募集する事業化プロデューサーは、プログラムには採択された研究者等のチームにジョインし、ビジネスプラン策定やマーケット調査などを行い、ベンチャーキャピタルや事業会社などの外部機関とも連携しながら事業化を進める。最後は投資家や企業へ事業プランを発表し、フィードバックを受けて今後の道筋を検討していくこととなる。

「ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター」センター長 黒田 仁（たかた ぬみ） さん

九州大学で大学発ベンチャー企業設立に伴走する事業化プロデューサー（プレCxO）を副業で募集

いいね！ 77

GAPファンドNEXTプログラムの目指す姿

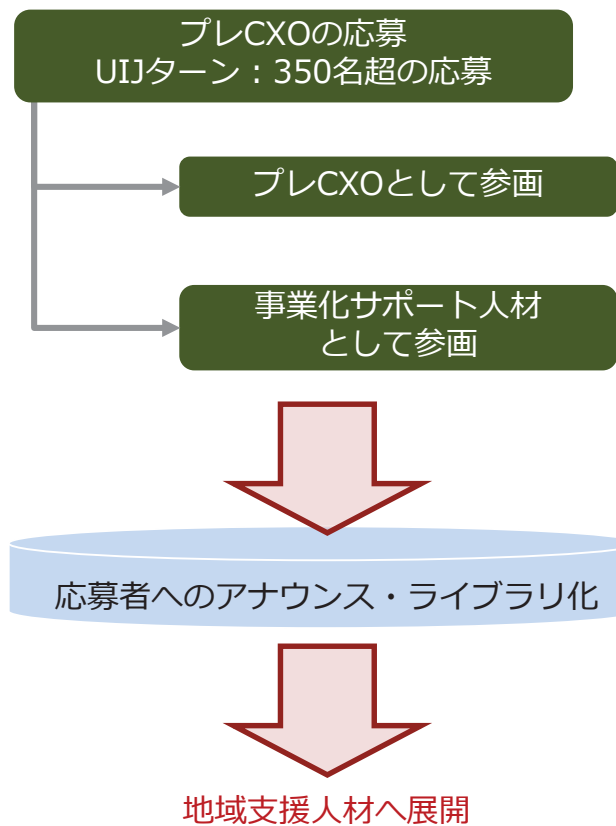
STEP1 : GAPファンドNEXTプログラムの定常化と拡大(普及)

スキームの定常化

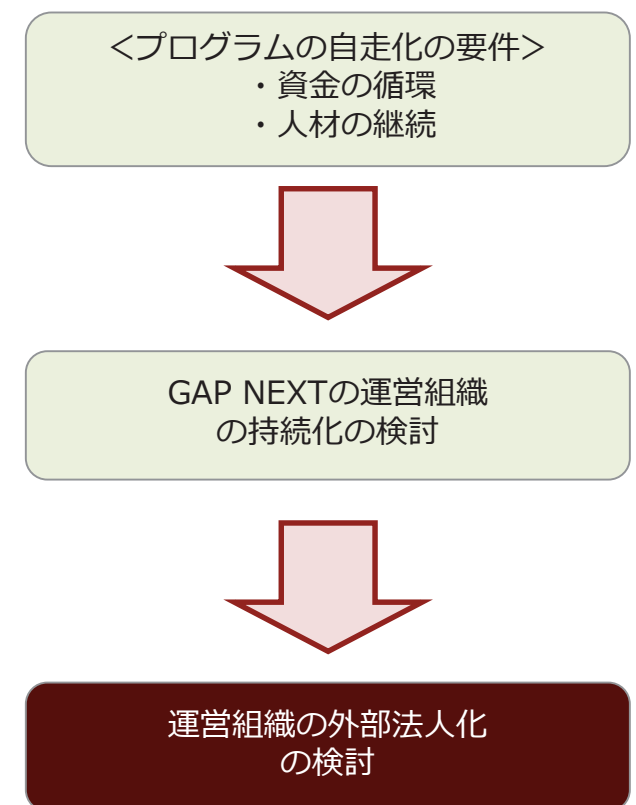


GAP NEXTの地域への拡大

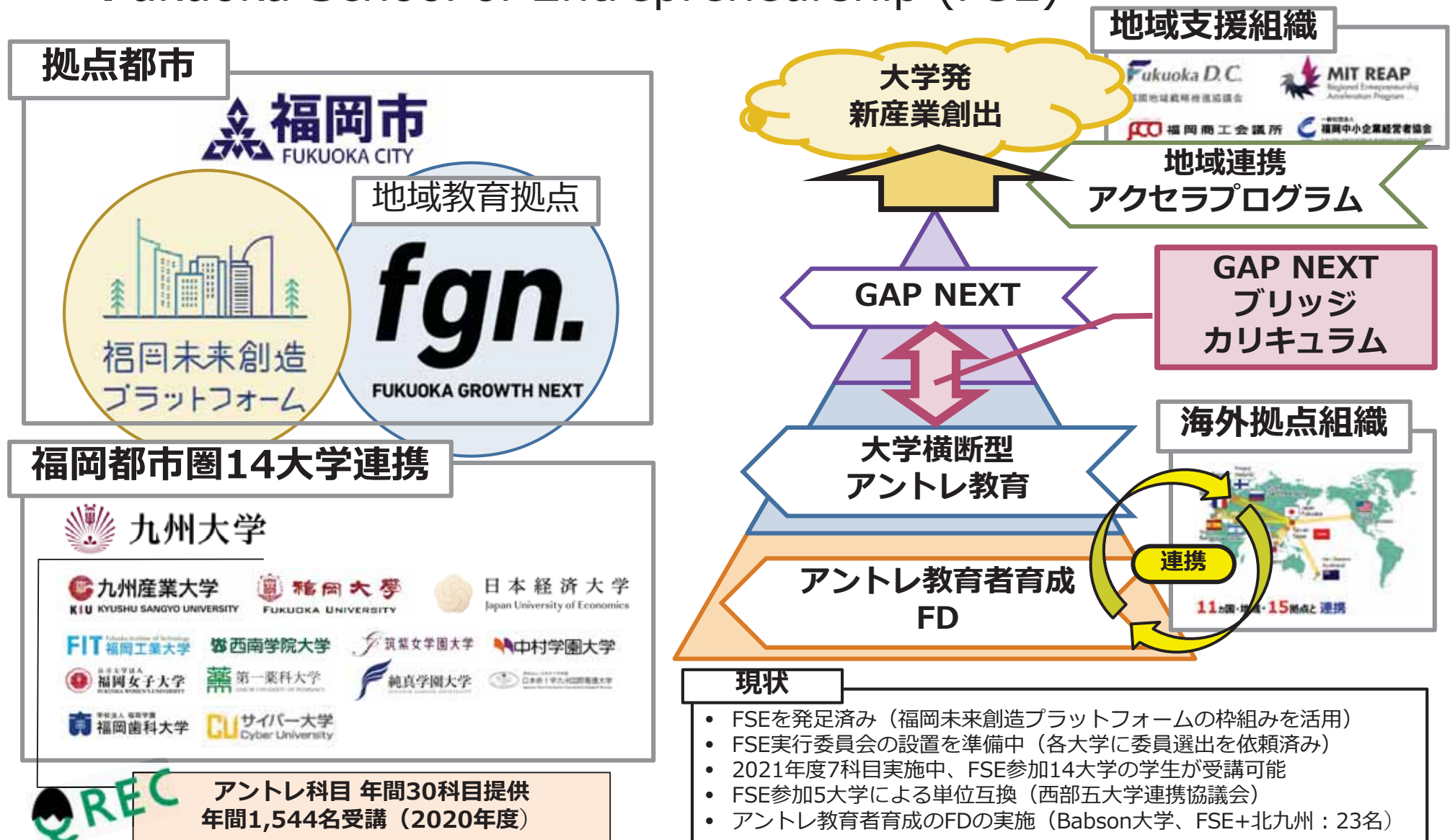
STEP2 : プレCXO及び事業化サポート人材のライブラリ化



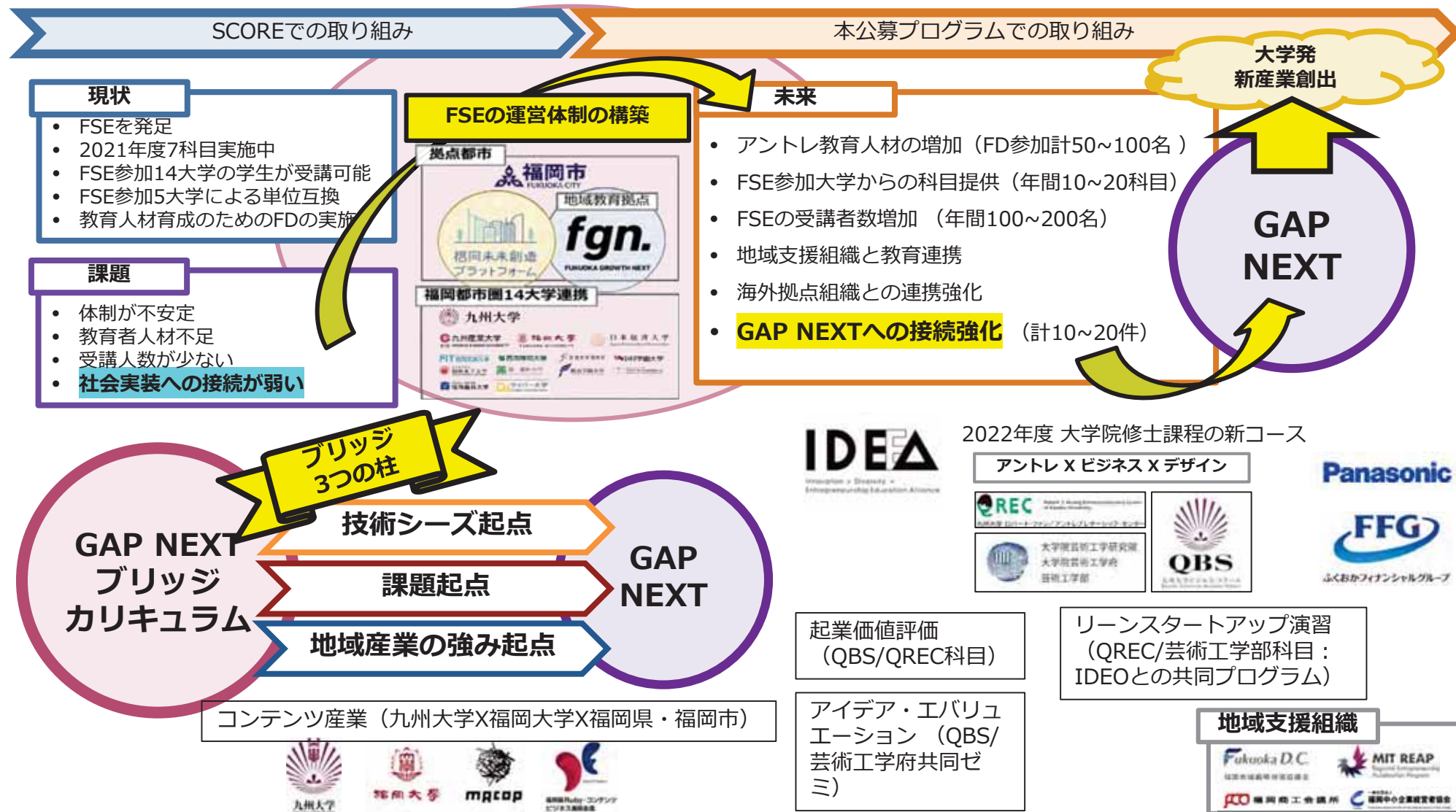
STEP3 : GAP NEXTの自走化



2. 福岡都市圏 大学横断型アントレプレナーシップ教育： Fukuoka School of Entrepreneurship (FSE)



本公募でFSEが目指す姿



実現のための仕組みやインフラ

3. 起業環境の整備

～大学内の関係諸ルールを整備と、拠点インフラの整理～

ハード面の整理と役割分担

ソフト面の整備



グローバルイベント

1. 地区大学の整備強化
2. 中心地とのオンライン接続
3. イベント等による交流と刺激の促進
4. オフラインでの支援の活性化



大学内の関係諸ルール

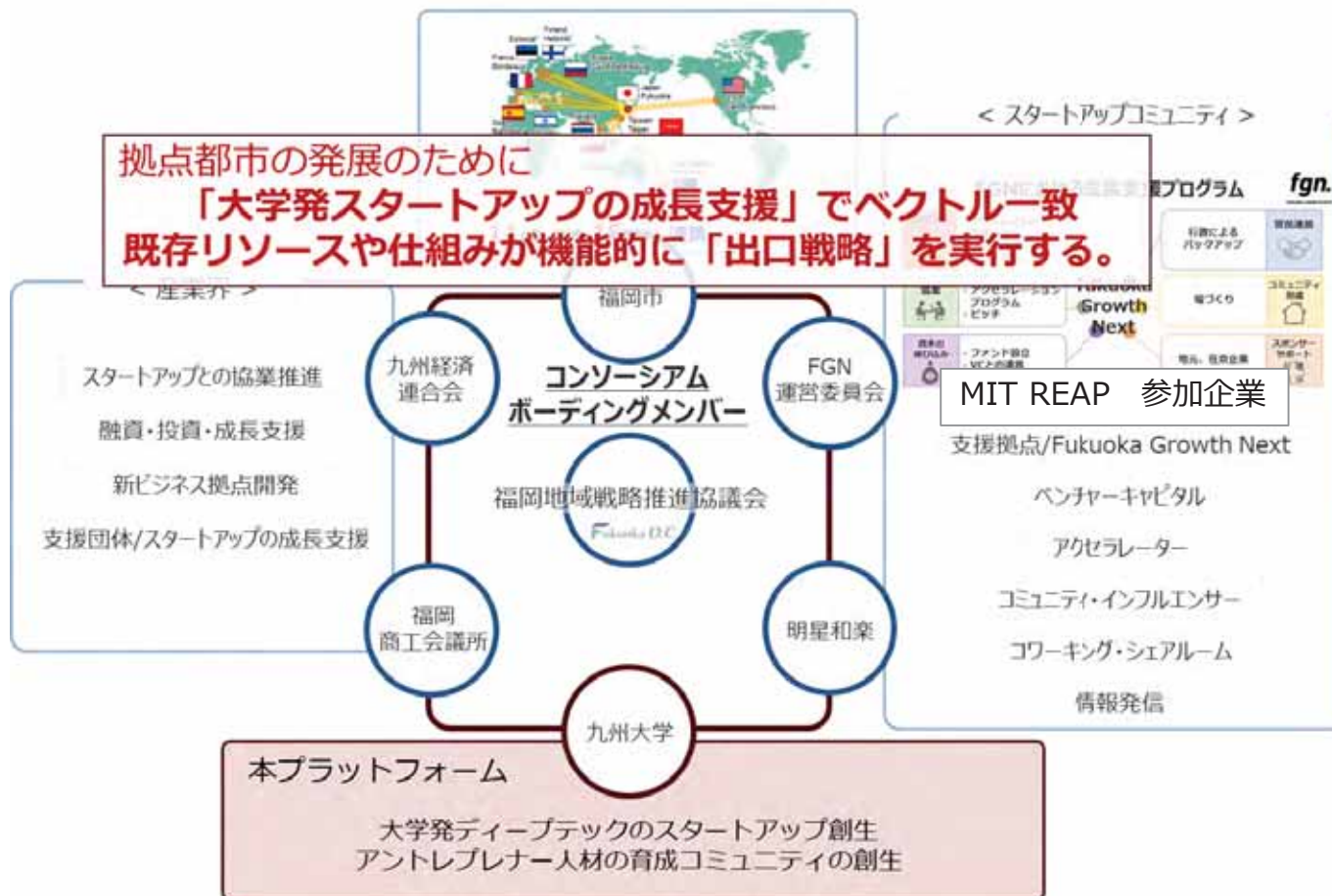
- ①各大学の状況把握
- ②諸ルールのフォーマット化
- ③プラットフォーム内へ展開

支援人材のネットワークキング
によるノウハウの共有

4. プラットフォーム内外のエコシステムの形成

～拠点都市の既存リソースとの接続強化～

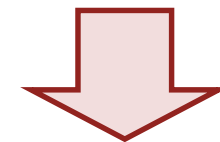
GAPファンドNEXTプログラム概要



SCORE事業における経過・状況

FDCとの連携協議の継続

- ①案件ライブラリ化
- ②イベント等の一本化
- ③UIターン人材の活用展開



①案件ライブラリ化について



シーズリストの共有化
共通のインターフェース
組織に応じた閲覧権限の付与

令和7年度末までに目指す各項目の機能

	＜R3年度の状況＞	＜R7年度末(本プログラム終了時点) までに目指す機能・体制＞	＜R7年度末の目標値＞
(1)起業活動支援	<p>＜プログラム＞ 単年数百万円の開発助成金のみ</p> <p>＜支援内容＞ VCや事業会社の紹介、国の助成金獲得サポートのみ</p> <p>＜体制＞ 九大以外は、兼任の産連支援者</p>	<p>・GAPファンドNEXTプログラムの運営スキームの確立、拠点都市内外の参画大学の拡大</p> <p>・UIターンへの仕組み構築を軸にして、プレCXO人材候補ライブラリの確立 事業化サポート人材ライブラリの確立</p> <p>・プラットフォームの組織化</p> <p>・回収可能なファンドスキームの立案</p> <p>・運営の外部法人化の基本計画立案</p>	<p>大学発VB創出数： R3年度比 15%増</p>
(2)アントレプレナーシップ人材の育成	<p>＜アントレプレナーシップ教育＞ FSEを発足、福岡都市圏の14大学が参加、7科目実施</p> <p>＜教育人材の育成＞ FDを実施、バプソン大学のSEEプログラムを実施予定</p> <p>＜社会実装への接続＞ 試験的に3科目を実施中</p>	<p>・FSEの持続的な運営体制の構築</p> <p>・科目数の増加</p> <p>・受講学生数の増加</p> <p>・海外拠点組織からの専門家の招聘してFDを実施</p> <p>・海外拠点組織への研修によるFDを実施</p> <p>・FD参加者の増加</p> <p>・GAP NEXTブリッジ・カリキュラムの実施</p> <p>・GAP NEXTへの申請を促進</p>	<p>・年間10～20科目程度</p> <p>・年間受講者数100～200名程度</p> <p>・FD参加者数 計50～100名程度</p> <p>・GAP NEXTへの申請数 計10～20件程度</p>
(3)起業環境の整備	<p>＜起業環境の諸ルール＞ 大学ごとで整備状況に明確な差</p> <p>＜設備等＞ 既存リソースは充実。拠点ごとの連携不足、学外の利用不十分</p>	<p>プラットフォーム内で、起業関係の諸ルールをフォーマット化</p> <p>各シーズ育成は各大学の拠点へ、起業に関する各種アドバイスは中心地FGNへ、役割分担の明確化</p>	<p>諸ルールのフォーマット完備</p> <p>設備稼働率： R3年度比 15%増</p>
(4)エコシステムの形成	<p>スタートアップ支援のコンソーシアムを自治体、経済界、大学で構成 支援メニュー、イベントが重複</p>	<p>・シーズライブラリの統一化</p> <p>・拠点都市内の自治体、経済界、大学における全支援メニューの一本化</p>	<p>民間からの資金調達： R3年度比 15%増</p>
その他	<p>新規の研究拠点、スタートアップ支援拠点の計画</p>	<p>シーズ発信拠点(元岡地区研究開発次世代拠点)への大学側情報の集約</p>	<p>R7年度末までの稼働 (各種KPI達成のためのインフラ)</p>